

# 春山スキーの楽しみ

昭和 31 年度 機械科卒 山田 幸祐



私の幾つかの趣味のうち、春山スキーは最も得意としているものです。6月に乗鞍高原へ出掛けましたので春山スキーをご紹介します。今回の乗鞍は、中部山岳国立公園の南端に位置する「乗鞍岳」連峰の残雪を滑るのが目的です。乗鞍へは 60 歳の時に初挑戦して過去に4回滑りました。春山スキーのきっかけは、山岳スキーに憧れ、ゲレンデスキーには無い大自然の雪渓にシュプールを描きたいとの願望からです。スキーは毎年続けており、今後も体力の許す範囲で続けたいと思っています。最近ではスキーの後に温泉で“ゆったりした気分”も楽しんでいます。

今回の春山スキーは、6月3~4日が天候安定していると判断、定宿としている乗鞍高原の「鈴蘭小屋」を目指し、車で友人と二人で出かけました。3日は安房峠を超えて「畳平」を滑降し、翌4日は「朝日岳」からの滑降を楽しみました。

春スキーの醍醐味は、何と言っても、大自然の雄大な雪渓を滑降することにあります。ゲレンデスキーのように都会的では無く、人工の工作物は全く無い、雄大な大自然の世界を滑降するのが醍醐味なのです。峰には岩肌がさらけ出し、渓谷に残る残雪を猛スピードで滑り降るので。滑る前には、渓谷の残雪を自分の足で登ります。スキーの裏に専用の滑り止めのシールを張り付け、ザックを背負って雪渓の急斜面を一步一步登ります。登っては休み、登っては休み、汗だくで登り続け、滑降スタート地点を目指して登り続けます。今回の乗鞍では3時間登りました。そして滑降を豪快にスタートします。澄み切った空気を引き裂き、残雪のギャップを猛烈なスピードで滑り抜きます。このスラロームの快感は、この紙面では到底書き表すことはできません。滑降した者だけが味わえる快感なのです。



乗鞍高原で春山スキーを楽しむ筆者



春山スキーの装備品

私のスキー歴を紹介します。ゲレンデスキーは社会人になってから始め、スキー漬けの生活を続けて30歳前半にはスキー連盟公認の準指導員資格を取得しました。スキー教室では度々講師を務めました。40歳代になって競技スキーに興味を感じ、会社や地元が主催する大会に出場して競技に挑みました。競技での怪我もあって50~60歳では長続きするスキーに専念したいとの思いから、年間10回程度のスキーを生活設計に取り込むことにしました。筋力トレーニングに励んでおりますが、年々体力の衰えを実感しており、安全と楽しみのバランスを見据えております。来年も春スキーを続けられるよう体力を維持したいと思っております。



北海道ニセコ・アンヌプリ山の南斜面での新雪滑走

海外でのスキーは、55歳でスイスのツェルマット、66歳でイタリアのシャモニー、68歳ではニュージーランドで広大な雪渓を滑ってきました。そこで感じたことは、ヨーロッパの国々の人たちは自然への挑戦意欲が旺盛であること、ケーブル設備、登山機器や個人の装備に充分お金を掛けている豊かさに驚かされました。アジア人の生活の豊かさや余暇を楽しむ豊かさとはスケールが違うヨーロッパの素晴らしいを感じました。



ニュージーランドのトレブルコーン・スキー場とコロネットピーク・スキー場にて